

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102041		
法人名	社会福祉法人 致遠会		
事業所名	グループホーム サンハイツ城栄		
所在地	〒852-8034 長崎県長崎市城栄町26-27		
自己評価作成日	令和元年 6月 18日	評価結果市町村受理日	令和元年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年8月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街にありながら商店街がすぐ近くにあり。買物に出掛けたり、地区の行事に参加し地域との繋がりを大切にしています。「ここに居る事で安心する」と思ってもらえる様お一人おひとりの生活を大切にする事を常に年頭におき支援しています。温かく家庭的な雰囲気、ご利用者様、職員が共に明るく過ごせるよう努めています。
ご利用者様が「ゆたかに・安らかに・自分らしい生活」が出来る様職員間で支援の方向性を共有し業務に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは年2回を基本に開催している家族会や、敬老会・クリスマス会などの行事の際や日々の面会時に家族から意見を聞いている。遠方の家族にも、毎月のホーム便りに入居者の写真とともに担当職員から一筆箋を添えて送付している。事務室にはヒヤリハットを入れるボックスを設けており、職員がヒヤリに気づいた時点ですぐに記入し日頃からリスクへの意識を持つよう心掛けている。母体法人で開催するバザーには入居者・職員ともに参加し、その際に経理が得意であった入居者に帳面を付けてもらい、その方の力を活かした役割や出番を作っている。ホームベランダには家庭菜園があり、職員は入居者と一緒にとマトやピーマン、キュウリなどを育てて食材として提供している。職員は食事介助の際に、食材一つひとつを伝えながら入居者と同じ目線での介助を行っている。入居者やその家族が「ここで良かった」と思ってもらえるよう介護の実践に努めているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームサンハイツ城栄

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に全員で理念の唱和を行い、共有ケアの実践に努めている。	法人理念の「ご利用者様の『豊かに、安らかな、自分らしい生活』を支援します、ご利用者様の人権を尊重し尊厳を守ります、ご利用者様のノーマライゼーションを追求します」を毎日申し送りして唱和している。職員は入居者やその家族が「ここで良かった」と思ってもらえるよう介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており昨年度は班の役員を務め地域の方々との交流も深める事ができた。買物や美容室等地域の商店街を利用し地域とご利用者の交流が出来る様努めている。	ホームは自治会に加入し、昨年度は自治会班長の役を担うなど地域との関係を深めることに繋げている。文化祭への入居者作品の展示や近隣小学校の運動会の見学、神社祭りの見学のほかホームで作ったおやつを近所へ配るなど地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りや文化祭に参加。運営推進会議では地域の方々に参加頂き、施設内の出来事や日常生活の様子を伝え、認知症についても理解してもらっている。支援の方法についても伝えている。地域の方々に参加頂き、施設内の出来事や日常生活の様子を伝え、認知症についても理解してもらっている。支援の方法についても伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催し意見の中での指摘や改善点、要望等は、職員間で話し合いを行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は基本的に日曜日の午後3時より実施し、自治会長・行政担当者・他事業所管理者・家族代表などの出席がある。会議ではホームの状況報告や情報交換のほか、身体拘束適正化検討委員会の報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議には介護保険課(今年度よりすこやか支援課)の当施設担当の職員の方に参加頂き親交が図られている。	運営推進会議に市高齢者すこやか支援課担当職員の出席があり、ホームの状況を伝えるとともにホームに関係する情報を得るなどして協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は防犯の為夜間のみ行っている。転倒の危険性が高いご利用者様はご家族の了承を得て夜間のみセンサーを使用している。スピーチロックをしない様意識してケアを行っている。	訪問調査時現在、身体拘束が必要な入居者はいない。ホームでは毎月身体拘束適正化委員会を開催している。入居者への対応事例で、協議を重ねた結果、裁縫が得意な職員が介助時に着用する服を工夫し、着用することで身体拘束をしないケアの実現に繋げるなど、職員全員で取り組んでいることが窺える。また、身体拘束に関する外部研修に参加した職員はホーム内で共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等の適正化委員会の委員が毎月の職員会議で資料を基に勉強会を行っており普段から「身体拘束ゼロ」を意識してケアしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しては知識が不足している職員が多い。 今後内外の研修に参加し法律、制度を学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明を行っている。ご理解、納得頂いたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を開催。率直な意見を頂いている。面会時にご利用者の様子をお伝えし、ご家族のご要望をお聞きし、迅速に対応している。	ホームでは年2回を基本に開催している家族会や、敬老会・クリスマス会などの行事の際や日々の面会時に家族から意見を聞いている。遠方の家族にも毎月のホーム便りに入居者の写真とともに担当職員から一筆箋を添えて送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見交換を行い情報を共有している。また適時職員個人の面談を行い、現状に理解に努めている。	月に1度全職員参加の会議を開催し、互いに意見交換し各種情報を共有している。会議ではホームの月間目標を立案し、職員が意識できるようフロアに掲示している。掲示した情報は2ヶ月毎に更新している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの優れているところを把握しケアに繋げている。研修は自主性を重んじ殆どが参加希望を募っている。ほぼ全職員が満遍なく参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会に参加し勉強会や研修に積極的に参加し自施設でのサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用していたサービス事業所に情報を尋ねたり、事前にも何度か面談し顔を覚えて頂く事で少しでも不安を軽減ができる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に常にご家族と話し、不安な事、要望等に耳を傾け信頼関係を作っている。遠方のご家族とは電話やメールで連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に際し、通院や他のサービスの必要性を検討し必要な場合は出来る限り継続する様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来る事」「出来ない事」を見極め洗濯、掃除、調理等の日常の家事を職員と一緒に、またご利用者同士で行っている。生活を共に過ごす意識を持つよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少しの事でもご家族に連絡し思いを聞いている。面会時は日頃の様子や身体の状況を報告し信頼関係を築いている。月に1度の家族通信や担当の手紙を郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方が多いので病院や美容室はそのまま継続できる様にしている。また自宅に帰りたいとの要望があった際は職員と一緒に帰宅され近所の方との交流も行っている。	職員は裁縫や刺し子など入居者の趣味の支援や、ハガキのやり取りや入居者個人の携帯電話で家族と電話できるようにするなど、これまでの関係が継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調を見ながら日中は皆さん出来るだけ一緒に過ごして頂いている。家事をお願いするとご利用者同士が声を掛け合い良い関係が出来ている。時には職員が橋渡しとなりご利用者同士の関係を築く時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も年賀状や電話を頂く事もある。初盆を迎えられるご家族には法人で出す精霊流しのお知らせをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援の中でご利用者の思いを把握し業務日誌、ケース記録に記載している。思いに寄り添ったケアに努めている。	意思の疎通が困難な方の思いについて職員間で対応を検討し、本人本位の支援ができるよう取り組んでいる。ホームでは居室番号に応じて担当職員がおり、担当者はその方の様子について支援経過を把握し、ケアプランへの反映に活かすよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者やご家族に話を伺ったり、入所前に利用していたサービス事業所に話を聞きこれまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に、1日のスケジュールを確認し、現状の把握に努めている。毎日のケース記録に目を通し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なアセスメント、モニタリングを実施し現状の即したケアプランを作成擦る様に努力している。	ホームではケアプランの実施状況を支援経過記録に○×表記で記載するとともに、日々の介護記録にも記録しアセスメントやモニタリングを通じて次回プラン作成に活かしている。今後は、入居者の各担当職員によるアセスメントとプラン立案を計画作成担当者との協力のもと行う意向にある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録にはケアプランに沿ったケアを意識して記録する様努めている。気づき等職員会議で検討しプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況を把握し、職員会議等でニーズに合わせ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店街での買い物を心掛け、地域の方々の関わりを大切にしている。また地域の文化祭や自治会に参加する事で地域との関係性が構築されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1/2週往診が7名、かかりつけ医受診が2名、受診の際はご家族対応。結果については説明を受け記録している。	ホームでは2週間に1度ホーム協力医による往診が行われており、入居前からのかかりつけ医に継続して受診している入居者もいる。必要に応じて歯科医の往診や、歯科衛生士による口腔ケアを月2～3回支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週4回出勤している。不在の際の状況を職員から報告している。又ケース記録を見て情報を共有しご利用者の身体状況把握につとめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はケースワーカーや看護師と情報の共有を行っている。ケースワーカーと連絡を密にとり早期退院と退院後の支援について話し合い安心して治療、退院が行える様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針の説明しご家族の同意を頂いている。H28年10月以降は看取りはないが今後も研修に参加し知識の向上に努めていく。	平成28年10月以降ホームでの看取り実績はないが、指針や同意書等の書類は整備されている。入居時に当該説明を行うとともに、看取り期となった場合にあらためて家族へ説明、意向を確認し同意を得ている。管理者は看取りへの対応ができるよう研修等に参加し、体制づくりに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや勉強会を通して緊急時や事故発生時の対応が実践できる様にしている。しかし実際に経験した職員が少なくまだ不十分である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月1回消防訓練を実施している。年1回消防署立会の訓練の際指摘や改善点があった場合は、法人の施設管理に報告し改善している。消防署立会の訓練の際は自治会長、市の介護保険課から参加頂いている。	ホームでは月1回消防訓練を実施し、消火器・通報・避難訓練を行っている。夜間帯を想定した訓練には年1回消防署・点検業者が立ち会い、市の介護保険課職員や自治会長等も訓練に参加している。訓練後には反省会を行い、内容について振り返りを行っている。	現在、近隣住民との協力体制について課題が窺われるものの、管理者は必要性を認識しており、今後も地域に向けた働きかけの継続が望まれる。また、ハザードマップを職員や家族の目につく場所に掲示し、あらためて避難経路や危険箇所を確認しておくことや、例えば飲料水など最低限ホームで備蓄できるものについて検討し保管しておくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の接遇マナーの研修を通し言葉使いは常に意識している。不適切な言葉かけがあった場合はお互いが注意し改善している。	ホームには接遇委員会があり、接遇担当の職員が常に言葉遣いや対応等に留意し、職員間で注意し合っている。また、法人本部が主催する所定の単位を取得して修了する全職員対象の接遇に関するカリキュラムを受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりわかりやすくを意識しご利用者が意志決定が出来る様な言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールは決めていない。一人ひとりの状況、思いに沿った個別の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着替えをし清潔を維持している。ご自分で選択するのが困難なご利用者は職員と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	偏りを防ぐため毎回ではないが、食材を基に好みの献立や調理方法を一緒に考えて調理している。準備や片付けは危険がない様見守りながら職員と一緒にやっている。	ホームでは入居者の咀嚼や嚥下状態に応じた食事を提供しており、職員は食事介助の際食材一つひとつを伝えながら入居者と同じ目線での介助を行っている。また、入居者の誕生日には手づくりのケーキを準備し、楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量を記録し管理している。特に水分量は1日1500mlを目標としほぼ達成できている。水分を摂るのが困難なご利用者にはお茶やスポーツ飲料でつくったゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。残渣物がないか職員が確認している。月に2回居宅療養管理指導による口腔ケアを実施している。受診が困難な方は往診での治療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は自立の方、食前、食後他排泄のパターンでの誘導を行っている。夜間は2時間おきに見守りしている。誘導や失禁時の声掛けはプライバシーに配慮し適切な支援に努めている。	職員は入居者の排泄パターンに配慮し、適宜トイレ誘導を行っている。入居者の状態に応じたセンサーの使用や、プライバシーに配慮しながら見守りや夜間の誘導・声掛けなど、支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心のメニューや水分量にも心がけている。どうしても排便がない場合は主治医に伝え医療的な指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の入浴を心掛けている。毎日の入浴を希望される方には可能な限り対応している。夕方や夜間の入浴が出来るのが好ましいが職員の対応が困難であり希望の時間に入浴頂くのは難しい。	ホームでは毎日入浴の準備がなされており、隔日での入浴支援となっている。重度の方については、必要に応じて職員2人で介助している。入浴を拒否する方には声掛けの工夫や時間をずらすなど配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休んで頂ける様にしている、しかし昼夜逆転にならない様に時間を見て声を掛けさせて頂いている。週1回シーツ洗濯を行い、清潔な寝具で気持ち良く眠れる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を確認し、目的、副作用用法、用量を確認している。不明な事は看護師に尋ね職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を把握し、又ご利用者の希望を聞きながら楽しみのある生活ができる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜や菖蒲など季節を感じられる外出を行っている。又外食にも出掛けている。昨年の秋にはバザーの売り上げでご利用者の要望であったスイーツを食べに出掛けた。家族と外泊や買い物等自由に外出されている。	ホームでは入居者の高齢化や身体レベルの低下などによって、頻繁に近隣へ外出できる方が少なくなってきているものの、季節によって花見への外出や正月に家族と外泊する方もいる。また、近隣にある行きつけの美容室に出掛ける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーで職員が側につきお金を払ってもらっている。又希望に添いセルフレジを使用し代金支払いまでの一連の動作をされ、その事が自信となり買物を楽しみにされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話でご家族に自由に電話をされる方が1名おられるが他は殆どの方が実施できていない。今年は全員ご家族宛てに年賀状を書かれた。ご家族より感謝の言葉を頂いた。それをきっかけにご家族からも便りが届く様になった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設的环境を整え皆さんが気持ちよく過ごして頂ける様支援している。ご利用者と一緒に花や野菜の苗を買いに行き、花壇の手入れをしている。ベランダの家庭菜園で野菜を育てご利用者が自由に収穫され、すぐ調理し食卓に出している。	ホームベランダには家庭菜園があり、職員は入居者と一緒にトマトやピーマン、キュウリなどを育てて食材として提供している。共用空間には七夕・クリスマス・節句・正月など、時季に応じた飾りつけがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで横になって頂いたり、気の合ったご利用者同士の席の配置考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇を置かれている。又ご家族の写真を部屋に置く事で家族の繋がりを忘れない様にしている。	ホームでは、居室への本人馴染みの物の持ち込みが可能であることを入居時に本人や家族に伝え、入居者個々に合わせた居室づくりができるよう配慮している。尚、ベッド及びマットはホーム備え付けのものを使用している。	居室に置いているポータブルトイレについては、使い勝手や動線等を入居者本人に確認した上で日中使用しない場合は目隠し等をするなど検討することが望ましい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」は手を出さず側で見守る。居室入口の表札、トイレや浴室を表示する事で自立した生活が送れる様支援している。		